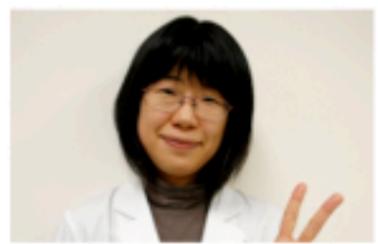


# 臨床家の 声を訊け

講師リレー連載 第9回

はりきゅう実技担当 駒井 知佳子 先生



幸いにも臨床と教育という2つの場で仕事をさせていただけることに感謝しています。多くの先生方・友人・家族、患者さんあつてのことです。

学校現場と臨床現場を見ていると、お料理とよく似ていると感じます(多分どんな技術も同じなのでしょう 注:私は料理上手ではありません)。どんなに料理の本を読んでもおいしい料理は作れません。以前カステラを焼いた時はカステラらしく(笑)焼きあがるまでに6回焼きました。卵と粉と砂糖の味と量・混ぜ具合・型への流しこみ方・オーブンの性質・火加減・焼いた後の寝かし加減などに加え、外気温や湿度、道具よってできあがりに雲泥の差。

いい料理人はその時の素材の味や性質・気候によって、調理技術を絶妙にかえます。お客さんの疲れ具合を階段の登る足音で判断して塩加減を変える名人もいらっしゃいます(疲労時は塩の多いほうがおいしく感じるから)。

治療も同じように感じます。本で得た知識は硬い知識。本のおりの経穴に鍼や灸をして治るとはかぎりません。ひどければ悪化させます。残念ながら鍼灸師は免許をとってからしか実際の現場で研鑽を重ねられません。けれど、できないからしかたない、無理だよ、といっちはなにも進みません。今できることは、硬い知識を貯めること・基礎技術を究めること。お料理で大根を薄くむけるようになるように、痛くない切皮ができるようになります。観察する五感を養いましょう。重ねた努力は現場にでた時になによりも自分の味方、基礎体力になります。国家試験で 60%ぎりぎりの先生はいやでしょう? (でもすごい努力してがんばって 60%だった先生なら臨床に出ても一生懸命で、それだけで患者さんになりたい気がしますね)

料理もスポーツも鍼灸でも、行動したらなにかがかわります。もう1つ、お料理上手になるコツは経験者に教えてもらうこと。学校は授業料の代わりに教えてくれます(もちろんそれ以上に教育熱心な先生が多々いらっしゃるのみなさんが感じてますよね)。外の世界にでたら無条件ではなかなか教えてもらえません。ほんとうに医療や患者さんのことを考えている先生はお金では動きません。「あなたに教えたい、あなたを伸ばしたい」と心を動かす人になってください。そして教えてもらったことは自分のなかにとめずに誰かにわたすといいです。手をさしのべる人は手をさしのべてもらえます(わたしは未熟さゆえに心配をかけ、たくさんさしのべていただきました。見習わないでくださいね。いつになったらお返し終わるのか、きっと死ぬまで返さないといけないのでしょうか)。気血津液や四季と同じで贈り物(ギフト:このことばには天賦の才能という意味もあります)はくるくるめぐらせることが自然です。

「いい先生になってください。」師匠にいつもいわれることばです。みなさんにも。

## ガラビジ通信

### 武器の町 ダツラ

鍼灸師学科 副学科長 真田 浩二

世界四大文明のひとつに数えられるインダス文明は、古代インドで栄えた文明であるという認識をもつものが多いが、有名なモヘンジョダロやハラッパーの遺跡は現在のパキスタンにある。インダス川もその大半がパキスタンを流れる。相次ぐテロの発生により、パキスタンは非常に危険な国となってしまっているが、これは今にはじまったことではない。わたしは約 18 年前の 1993 年に、インドにあるシーク教の聖地アムリツァーから陸路で国境を越えパキスタンを旅行したことがあるが、最初の訪問地・パンジャブ州のラホールでは町いく一般市民の多くが銃やライフルを携帯していることにまず驚かされた。また、こころホールのホテル・ゲストハウスはほとんどが泥棒宿で、知らぬものがうっかり泊まると身ぐるみ被害をうける旨のはなしを何度もきかされた。列車にのると駅でむやみに外にでないように注意される。1 人で駅にたっていると襲われることがたびたびあるらしい。さらにアフガン国境付近の山々は山賊だらけだとのことだ。かように旅行をするには比較的危険度が高く敬遠されがちだが、インド人と比べてもパキスタン人は非常に親日的で、強引だがありがたい親切を何度もうけた。また、それほど多くはないが美しいモスクや遺跡などの観光資源もある。特に北西部山岳地帯の雄大な自然は類をみない美しさで、有名なはなしでは『風の谷のナウシカ』はフンザやギルギットなど北西部の村がモデルになっているといわれる。これまで訪れた場所でもっとも美しい場所は、ときかれば迷わずこのパキスタン北西部山岳地帯を一番にあげる。タージマハルよりもヒマラヤ山脈よりもアンコールワットよりも美しい。忘れられない風景とはああいうものだろうと思う。

北西部カイバル・パクトウンクワ州の州都ペシャールはカイバル峠をはさんでアフガンと接しており、ほとんどの住民がパシユトーンであるといわれる。この校外にダツラという小さな町がある。この町を有名にしているのは町全体が武器工場になっているためである。ほか、アフガンハシシもかんたんに手にはいる。カラシニコフやM16 を筆頭に世界中の銃器がすべて手づくりでつくられる。これらの銃器がいったいどこに売られているかわからないが、アフガングリラの供給源になっているのはまちがいないだろう。ここではとても低料金で試し打ちもでき、わたしが打たせてもらったカラシニコフは 100 発で 800 円ほど、M16 は 2000 円ほどだった。同行者がバズーカの試し打ちを希望したがこれはさすがにダツラでも禁止されているらしく、まずガードマンにバクシーシをばらい、目かくしをしてさらに郊外までつれていかれた。このときはさすがに死を覚悟したが、人家のまったくない奥地まで連れていかれて無事バズーカの発砲をみる事ができた。山が崩れて地形がかわった。ものすごい地響きからだが震えた。ダツラはパキスタン山岳部におおくあるトライバルエリア【パキスタン政府の法律が通用しない部族地帯】にあり、パーミットがなければいくことができない非常に危険なところである。

